

7月

みんなくウィークエンド・サロン

研究者と話そう

■時間 14時30分から15時30分

■展示観覧料が必要です。

※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館（みんなく）の研究者が来館された皆様の前に登場します！「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」など、話題や内容は実に多彩。

どんどん質問をおよせください。展示場でお待ちしております。

8日
(日曜日)

話者：田村克己（国立民族学博物館 教授）

話題：ビルマ／ミャンマーの口コミカ

会場：本館展示場（東南アジア休憩所）

15日
(日曜日)

話者：福岡正太（国立民族学博物館 准教授）

話題：みんなくの展示と映像

会場：本館展示場（ナビひろば）

22日
(日曜日)

話者：山本泰則（国立民族学博物館 准教授）

話題：あたらしくなったビデオテーク
——みんなく最後のビデオテーク ???

会場：本館展示場（ナビひろば）

29日
(日曜日)

話者：三島禎子（国立民族学博物館 准教授）

話題：移民の国フランスとアフリカの深い関係

会場：本館展示場（ナビひろば）

1年間みんなくに何度でも入館できる 「みんなくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんなくを楽しむための特典がいっぱいです。

特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引

◆みんなくミュージアム・ショップとレストランの10%割引

◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。

詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。

(電話06-6877-8893／平日9:00～17:00)

編集後記

本号特集の主演、広瀬さんの、ざわつて感じ、知り、表現する、という世界の存在についての啓発は、民博の研究や展示にあらたな可能性、そしてあらたな気配りの方法を示してきた。障害者、弱者に配慮したユニバーサルデザインや情報提供の多様化が叫ばれる今日、たしかに民博の展示や来館者サービスにみられる対応は、時流の反映ともいえよう。しかし全盲の人のびとが、視覚にとらわれず、ある意味でモノヤコトの本質を感じとれる目をもつことを、研究をとおして実証してきたのは広瀬さんだ。

なによりも健常者を見常者といいかえ、「触文化」など新語を次々とつくってきた彼のユーモアと発想力は、見常者がはれ物に触るような慎重さをもってしか接しえなかった、目が見えない世界がちっとも暗くないことを教えてくれた。

7月からは連続講座「博物館にさわる」が始まる。多くの人にとって触文化への開眼の契機となればと思う。

(庄司博史)

2012年6月号6ページ、「産業化とともに——19世紀末～20世紀初頭のヨーロッパ」において、編集作業の過程で下記のとおり誤りが生じました。謹んでお詫び申し上げます。

- 第二段落見出し（誤）「工業制機械工業が引き起こしたもの」
（正）「工場制機械工業が引き起こしたもの」

- 表紙：石彫像（ホッキョクグマ）H0227853 制作者：ナレニク・テメウ
民族：イヌイット 制作地：カナダ 1960～80年代制作

次号の予告

特集

特別展 世界の織機と織物

織って! みて! 織りのカラクリ大発見(仮)

月刊みんなく 2012年7月号

第36巻第7号通巻第418号 2012年7月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1

電話 06-6876-2151

発行人 八杉佳穂

編集委員 庄司博史（編集長） 小川さやか 樫永真佐夫

久保正敏 菅瀬晶子 山中由里子

編集アドバイザー 山内直樹

デザイン 宮谷一敦

制作・協力 財団法人 千里文化財団

印刷 日本写真印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

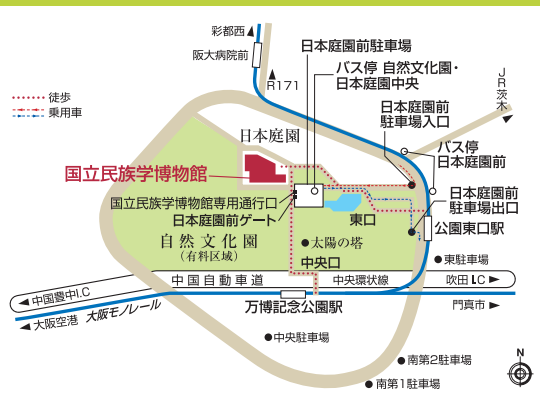
交通案内

●大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分

●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分（茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。）

●自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。

●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。



みんなくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

